

清らかな水が育てた 湖北の蚕

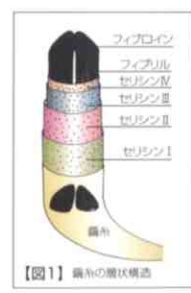
「水」が育てた 湖北の養蚕

なぜ、湖北で養蚕が盛んになったのでしょうか。一つは姉川の存在です。川が氾濫を繰り返したため、普通の作物よりも桑の木を植えることに力が入られたからです。「堤外桑園」と呼ばれる河原に作られた桑畑がそれで、蚕を飼っていない現在でもその名残りが河原にあります。

さらに、マユから糸を繰るときに必要な「水」。製糸は「用水型産業」と言われるように、一キログラムの生糸を作るのに約〇・八五立方メートルの水がいります。川の水はバクテリアや不純物が多くて不向き。かといって、湧き水を使っても、鉄などのミネラルが含まれていれば使えません。糸に色を付けてしまうからです。糸を繰るのに適した水は中性で不純物が少なく、鉄やマンガンなどを含まないものである必要があります。木之本町、浅井町の湧水はそれに最適だったのです。

湖北独自の座繰り操糸

そのうち、湖北独自の糸作りの方法「座繰り操糸」が誕生しました。普通はマユを乾燥させた後、熱い湯に漬けて機械で操糸するのですが、座繰り操糸では生のマユを燻してから湯の中に入れ、十数粒のマユから一本の特殊生糸に作りあわ

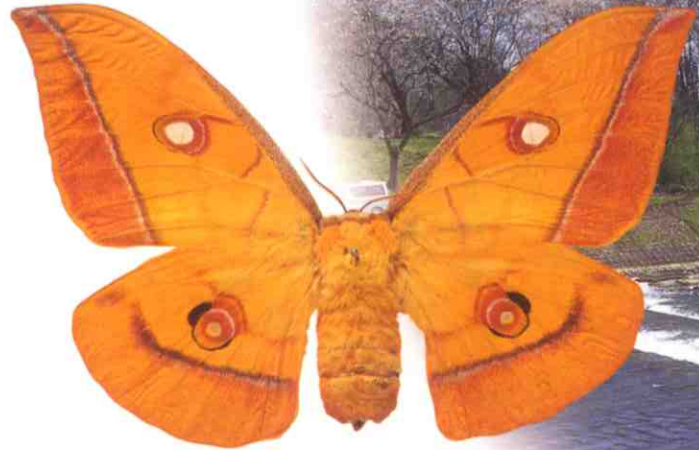


伊香貝神社

【伊香貝神社の境内にある独結水】平安時代、伊香貝神社の境内にある池の湧水を引き、糸を引いたところ上質の糸ができた。これを京都へ持って行って紐や楽器糸に作り、全国に広めたといわれています。



日本でも珍しい「座繰り操糸」が生み出す琴糸の里。高時川流域はかつて日本でも有数の蚕の産地でした。その要因は何と「水」！絹糸に「水」は大きくかかわっていたのです。現在、湖北地方は、三味線糸の屈指の産地として知られています。また、「ヤママユ(天蚕)」の産地としても注目され始めました。滋賀県農業試験場湖北分場で、湖北と極めて縁の深い蚕についてお話をうかがいました。



ヤママユの成虫



カイコガの成虫

るものです。最近ではこの琴や三味線の糸を服地に使う研究を進めており、昨年試作に成功しました。ちりめんでは出ない独特の輝きを出せます。

神秘的な緑の輝き、ヤママユの“絹糸”

「ヤママユ蛾と呼ばれる昆虫も“絹糸”のマユを作ります。ただし、桑ではなくクヌギ、ナラなどのブナ科植物の葉を食べており、作り出すマユも神秘的な緑色をした独特のもの。繊維の断面が扁平な形をしており光が乱反射することから生まれた深い緑色の輝きです。このマユから手繰り操糸で作った生糸は、普通の生糸の百倍位の価値のあるものです。」

ヤママユは江戸時代の天明年間から長野の穂高地方で飼われており、最近、湖北でも飼われるようになりました。

豊かな自然林とともに

ヤママユは蚕と違って「ブナ科植物の林」に生息しています。特にクヌギやアベマキを好み、葉を端からバリバリと食べていくタイプ。ブナ科植物に寄生する昆虫の中には、「葉もぐり」と言って、あの薄葉の中に入り込んで食べるタイプや、葉を巻いて中に入り、穴を空けて果にするタイプなど、さまざまなタイプがいます。

手付かずの雑木林には必ずブナ科植物の林があり、ヤママユに限らず数多くの種類の昆虫が生息しています。五二〇〇種と見られる日本に棲息している蛾や蝶のうち、六〇〇種強がブナ科植物をエサにしていると言われています。そういった意味でもブナ科植物の林を保つことは、ヤママユやその地域に生息する生物の生態系にとっても大切なことなのです。

蚕博物館

(カイコの種類と 繰りだされる生糸)

正式名: サクサン 業界用語: 柞 蚕 <i>Antheraea pernyi</i>	
正式名: ヤママユ 業界用語: 天 蚕 <i>Antheraea yamamai</i>	
正式名: カイコガ 業界用語: 家 蚕 <i>Bombyx mori</i>	



豆和語 蚕 不思議な昆虫、蚕

人間が作り上げた不思議な昆虫。蚕の成虫には口がないので何も食べられません。成虫は交尾して死ぬだけ。さらに、蛾なのに飛べません。なぜなら、マユを作るのが「カイコの人生の最終目標」となるよう、人間が変えてしまったからです。



【滋賀県農業試験場 湖北分場】湖北地域にあった稲や特産物等の栽培法の研究をしたり、良いマユをつくるヤママユの卵を生産して農家に配布したり、現場に密着した農業の試験研究を行っています。伊香郡木之本町千田840 TEL 0749-82-2079

